

地域支援だより きらりNet



令和4年11月10日
第126号
秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部



【進路指導について ～中学校及び中学部卒業後の進路等～】

昨年度、「小学部の進路指導について～小学部のキャリア教育とは～（115号）」でも話題にしましたが、キャリア教育の考え方をベースに、中学部卒業後の進路を見据えた進路指導について考えてみたいと思います。

キャリア教育とは～【障害の程度に関係なく、自分らしい生き方を（見付け）実現していく（ために必要な意欲や態度を育てる）教育】

★キャリア教育は就学前の段階から体系的に取り組んでいく、積み上げていくべきもの

★キャリア発達は在学中で終わるものではなく、一生涯積み重ねていくもの

では、小学校（部）から中学校（部）まで積み重ねてきたキャリアを踏まえ、中学校（部）の卒業後の進路について考えてみましょう。

中学校（部）卒業後の主な進路は、高等学校または特別支援学校高等部となることが多いと考えられます。特に、高等学校への進路を考える上では、学校説明会等に参加し、綿密な教育相談が必要です。実際に学校生活を送っていくことを見据え、学校の設備、環境面、支援について等、確認する必要があります。また、就学に当たっては学校生活だけでなく、通学手段の確保、経済的負担等、様々な課題を一つ一つクリアしていく必要がありますので、家族や本人、志望先と十分に相談しましょう。教育相談や体験学習を重ねることで、自分との相性や課題等に気付くきっかけになることが多いです。“百聞は一見にしかず”自分の目で、耳で、身体で、体感することをお奨めします。

また、高等学校、特別支援学校のそれぞれの大まかな特徴を知っておくことも進路決定の際の手掛かりとなります。

【特別支援学校 高等部】

○卒業後は、主に一般就労や福祉的就労を目指して学習します。



例1) 作業学習

- ・様々な作業を通して、働く楽しさややりがい、働くために必要な力(挨拶・依頼等)を育成

例2) 日常生活の指導

- ・身辺処理、スケジュールの管理等

例3) 生活単元学習

- ・公共交通機関の利用、買い物、進路を考える学習等

*自立(職業自立や生活自立)と社会参加を目指し、様々な要素に取り組み、自分でできることを増やすとともに、経験値を高める指導を行っている。

○視覚・聴覚・秋田きらり支援学校には、単位取得制の教育課程もあります。高等学校とほぼ同じ教育課程ですが、取得できる単位が違う場合もありますので、要確認です。

【高等学校】

○卒業後は、進学や一般就労を目指して学習します。



例1) 各教科(単位取得制)

- ・教科学習の予習・復習(単位取得のため)

例2) 生活力(生きる力)＝自立に向けて

- *家庭または個人で様々な経験をすることで、生活力を身に付けていく必要性がある。

以下(例)

- ・生活に関すること(身辺自立、健康の維持、生活リズム 等)
- ・人との関わり(挨拶、お礼、依頼、笑顔で関わる 等)
- ・意欲・前向きな態度(自己選択・決定、挑戦意欲をもつ 等)
- ・自己理解(得意・不得意の理解、障害理解 等)

秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

教えて先輩！＜総合的な探究の時間：卒業生講話会＞高等部：知的代替の教育課程

先日、令和3年度卒業生 A さんを講師に招き、『卒業生講話会』を実施しました。身近な先輩の話を通じて聞くことは、「〇さんみたいになりたい」「〇をがんばるぞ」といった、卒業後の生活について見通しや卒業に向かって目標をもつことにつながります。当日は、事前に在校生が考えた先輩への質問に、A さんが一つ一つ丁寧に答えながら話を進めてくれました。一緒に学習していた先輩が仕事を頑張り、余暇やおしゃれを楽しんでいる姿に大きく心を動かされ、真剣な表情で聴き入っていました。



＜Aさんの講話から＞

Q: ストレス解消法は？ → A: 美容院で髪型を変えること、おしゃれを楽しむことです。

Q: 学校で学んだことは？ → A: あいさつや礼儀です。

Q: 仕事について → A: 黙々と取り組めて楽しいです。数をこなせたときに達成感があります。自分が仕事をした花の苗が、飾られたり売られたりしていたときにやりがいを感じます。

○後輩へメッセージ

学校生活を悔いのないように楽しんでください。進路は、とにかく自分が「ここがいいな」って感じられるところに行ってください。



Aさんの話を聞いて、生徒たちは「進路を決める時『ここがいいな』と思える場所を探して』と行ってくださったことが心に残りました。」「園芸作業を黙々とやっていたすごいなと思いました。ぼくも園芸作業をしてみたいです。」「あいさつを私も頑張ります。私も Aさんみたいに卒業したら学校でお話したいです。かっこよかったです。」等感想を述べていました。先輩の言葉だからこそ、自分の進路がリアルなものになると感じた 1 時間です。

(文責: 工藤 裕子)

教育専門監のコーナー

生きる力を育む『出会い』と『体験』

「生きる力」を育む豊かな体験(原体験)とは

五感のうち、特に触覚、嗅覚、味覚を意識的に使い、火、石、土、水、木、草、動物という七つの自然物と出会う、直接体験。七つの自然物との体験に、『ゼロ体験』という恐怖感、空腹感、感動などの感覚を加えた体験。

8つの原体験での豊かな学び

火のありがたみや怖さを知る「火」の体験による学び。土の手触りや匂いを感じる「土」の体験による学び。形や重さ、色、模様の違いに気付く「石」の体験による学び。水の温度やしぶきの勢いを感じる「水」の体験による学び。自然の生命力や新緑・紅葉の美しさを知る「木」の体験による学び。草の手触り、形や模様の違いに気付く「草」の体験による学び。命の尊さ、生命力、愛情、思いやりを知る「動物」の体験による学び。そして自然の脅威やありがたみに気付く「ゼロ」の体験による学び。

仲間と共に作り上げていく豊かな体験は、知識を知恵として生かせるようになったり、感受性を育んだり、子どもの「生きる力」を養っていきます。子ども達の興味を広げる学びの環境を整えることで、子ども達は、将来に向けて夢を抱き、物事に向かう力を身に付けていきます。

参考: 『子どもの生きる力が育つ「原体験」とは?』

(WEB サイト「未来へいこうよ」原体験教育研究会 泉伸 一)

《憧れの先輩》

夢や希望は、明日を生きる原動力。将来に夢を抱き、一人一人がその実現を目指す、高等部の総合的な探究の時間の取組。大切にしているのは「今の自分」に価値や意味を見いだすこと。生徒の夢や願いを大切に教育計画に支えられた学びの中で、生徒は将来を見据え、“なぜ今この学習をするのか”“この学習で何が身に付くのか”“何ができるようになるのか”を自ら意識しながら、直面する課題と真摯に向き合います。各自が自立し、社会参加していくために、周囲の状況に対応しながら、学ぶこと、役割を担うこと、そして生きることについて考えます。憧れの先輩との出会いや自分に大きな影響を与えた体験が、生徒に夢や目標、生きるテーマをもたらします。生徒は周囲との対話を繰り返す中で自らの価値に気付き、自分らしい生き方、働き方を思い描いていきます。「何かを始めるのに大人になるまで待たなくていい。」学校生活や地域での多様な他者との「出会い」、「体験」、そして「対話」により、周囲と協働する力が育まれていきます。

(文責: 二階堂 悟)

教頭 近藤 郁 地域支援部主任 大友 明希子

住所: 〒010-1409 秋田市南ヶ丘1丁目1番1号

E-mail: kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話: 018 (889) 8573 FAX: 018 (889) 8575



「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>

